



カフェテリア・ポイントの消化不良について 認識は労使で一致！

東日本ユニオンは3月1日、申第4号「新型コロナウイルス感染拡大に伴うカフェテリア・プランの取り扱いに関する申し入れ」の団体交渉を開催しました。

カフェテリア・ポイントの増付与を求めるも、実現できず

《組合》新型コロナウイルス感染拡大の影響により、社員自らの感染予防のため、家族を含め行きたかった旅行を自粛してきた。カフェテリア・ポイントが消化されていない現状の認識はあるのか。また、今年度使用できない状況であったことから、来年度に230ポイントプラスし、460ポイントを付与する考えはあるのか。

《会社》ポイントが減っていない認識はあるが現状で妥当であり、来年度のポイントを増やす考えはない。割引率は大きいが、旅行にだけ使用してもらうことは考えていない。今まででは人間ドックやジェクサーなど利用するとポイントを引いていたが、現在は引いていない。育児・介護、自己啓発では1ポイント300円分として使える。また、年度末まで首都圏中心ではあるが、Buy J R キャンペーンにより、駅ナカなどで買い物をすると、最大半額のキャッシュバックを行っている。コロナ禍で旅行ができない分、自己啓発や健康のためにポイントを使う選択肢もある。今後も選択肢のメニューを増やし、使うのは人それぞれであることから、自由に使ってもらいたい。

《組合》選択肢を増やしてもスポーツジム等は設備が無いなど、使える社員と使えない社員が出てきてしまう。ポイントを増付与することが、福利厚生で全社員が恩恵に繋がるのではないか。申し入れの趣旨に賛同するならば等しく使えるように、もっと知恵を絞ってもらいたい。

環境整備をしていくことを確認！

《組合》カフェテリアプラン・オペレーションに電話が繋がらないことが常態化している。「GO TO キャンペーン」を行っていたときは尚更であった。今年度のカフェテリア・ポイントは年度末で使い切らなくてならないため、3月は特に電話が繋がりにくくなる。過去の内容を加味して、オペレーターの増員などは考えているのか。

《会社》応答率については把握しており、繋がりにくいことは承知している。JEPSと連携し、繁忙期は実績を見ながら増員して、必要な人員は付けていく。コロナ禍による払い戻しの対応や、FAX-OCRの送信だけで申し込みは済むが、確認の電話などで一件の対応時間が長くなってしまっている。確認したいのは否定しないが応答率を上げるために、社員にも申し込み等について慣れていただきたい。

《組合》社員も確認しないと不安がある。この不安に対しての掘り下げが必要であり、タブレットや掲示だけで周知するのではなく、説明やアナウンスをわかりやすくしてもらいたい。

《会社》周知方法をわかりやすくできるように検討していく。

